

被害妄想

アルツハイマー病や認知症の人は、自分のことを愛してくれる人やお世話をしてきている人に対しても、疑ったり、怖がったりすることがあります。彼らの世界は奇妙で混乱しているように見え、物を盗んだとか嘘をついたと他の人を責めたりします。それを個人的に受け取らないでください。こういったことはよくある行動です。

あなたにできること

安心させる

- 落ち着いて、優しい声で話す
- 否定しない…彼らにとっては現実には起きていると感じることだから
- 安全で、心配する必要はないということを教えてあげる
- 手を握る、抱きしめてあげる（触られるのを嫌がらない場合）
- 無くしたものを一緒に探す

注意をそらす

- 好きな食べ物を出したり、アクティビティを提案する
- 無くしたものを一緒に探し、その際に見つけた写真、家の中にあるもの、本などについて話す
- 外を散歩したり、別の部屋に連れて行く
- その人にとって大事なものについて話す（家族、音楽、趣味）

落ち着いたなじみのある環境づくり

- 財布、鍵、宝石類等、よく無くすものの予備を持っておく
- 静かで落ち着いた環境を保つ
- 覚えていて大事にしているものを身の回りに置く
- テレビ・ラジオ番組やニュースが落ち込む内容であれば消す
- 自分や周りの人の自己紹介を必要に応じてする
- 思い出にまつわる曲をかける

その他

- 被害妄想だと思われる症状に気づいたらその時の様子をメモし、医師と共有する
- 警察に提示することを想定して診断内容、あなたとの関係、代理権等の法的書類を常に持つておく
- あなたの気持ちやいら立ちを素直に話せるようなサポートグループや友人を見つける
- 実際に盗難にあうこともあるということを知っておく



なぜこうなってしまうのか

アルツハイマー病や認知症の人にみられる傾向

- 物をなくし、盗まれたかと思いつく
- 一度聞いたことを忘れ、もう一度話すとそれを嘘だと思いつく
- 配偶者の自分への扱い方が異なると感じ、それは浮気をしているからだと思いつく
- 何が現実でそうでないかを判断することができない



ヘルプライン
844.HELP.ALZ
alzgla.org

© 2017 Alzheimer's Greater Los Angeles
DHHS, ACLによる支援 (#90AL0002-01-00)